

長野県産業教育振興会 特別生徒研究実施報告

長野県諏訪実業高等学校 服飾科

- 1 研究テーマ オリジナル作品制作と発表方法の研究
- 2 研究者 教諭 山田佐江 小川淳子 西谷充代 西村美里
- 3 対象者 服飾科 3学年 上條梨花 以下20名
- 4 研究の目的

3年間の専門科の学びの集大成として一人ひとりオリジナルの作品制作を行う。オリジナルデザインを実現するための方法およびステージでの効果的な発表を研究する。問題解決をはかりながら技術および課題解決能力を高め、創造性を育てることを目的とする。

5 研究の概要

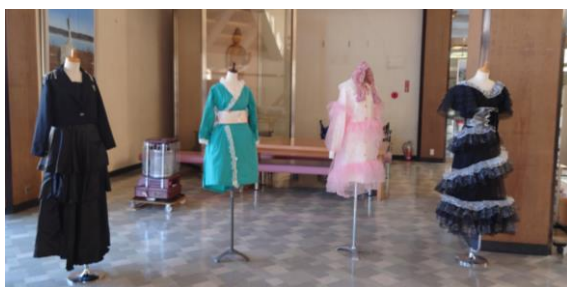
(1) 発表会の概要

- 名称 第14回 服飾科学習成果発表会 テーマ「Forever」
日時 令和5年1月21日（土）10時30分～12時30分
会場 諏訪市文化センター
発表内容 I 展示発表の部
・生徒作品展示
・諏訪市「相手意識に立つものづくり科」パネル展示
II ステージ発表の部 ～卒業制作ファッションショー～
入場者数 254名（服飾科1・2年生59名、招待者195名）
テーマ 「Forever」

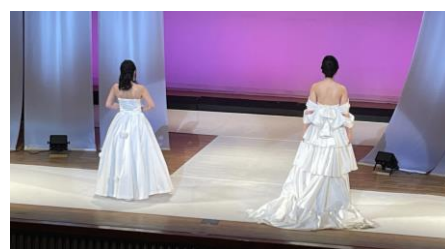
「Forever」に込めた思いは、永遠の友情と永遠の感謝。
服飾科で過ごした3年間の思い出を永遠に忘れない。見に来てくれた大切な人たちの心の中にも、自分たちが永遠に輝き続けてほしい。そして、その大切な人たちの支えがあって、今の私たちがあるという感謝の気持ちも永遠に持ち続けたい、という思いを込めてテーマを設定した。

I 展示発表の部

ボディにファッションショー作品を展示する形をとった。3年生の展示係が計画を立て、展示ブースを設営した。諏訪市「ものづくり科」の小中学生の取り組みのパネル展示も合わせて行った。



※ ステージ発表に先駆けて「岡谷シルク推進事業 岡谷アーティスト・イン・レジデンス 2022」参加作品を披露。オール岡谷産シルクのドレスを制作し披露した。



II ステージ発表の部

(1) オリジナル作品制作の過程

オリジナル作品制作のプロセスはまずデザインを考え、デザイン画で表現する。衣服のかたちにするために、これまでの学びを活かしながら自分自身で製図および縫製方法を研究する。

①デザインの発想

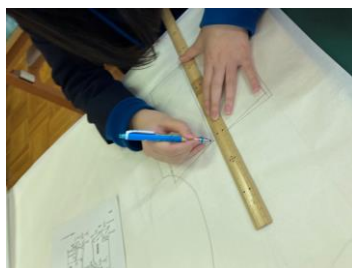
作品のテーマを決め、書籍や画集、自然や動植物などからデザインイメージに必要な要素を選び、アイデアを整理し、修正を加えながらデザインにしていく。

②製図

デザイン画をもとに実際に作品を形にするため、文化式原型や1・2年次で製図したものや検定の型紙を使用し、製図をする。デザインに合わせて展開、応用する。平面での製図のほか立体裁断を行いながら製図を作り上げていく。パターンからトワルを作成し、試着・補正を繰り返す、パターンを完成させる。あきの始末の方法を考える。見返しでの始末・ボタンあき・あきどまりなども理論に沿って作成する。



製図



トワルで完成形を確認

③縫製

地直し・裁断・しるしつけ・本縫い・装飾の順で作る。3年間で学んだ縫製の技術だけでなく、資料・文献等を参考に制作する。テキスタイルや装飾、着装でオリジナル性を追求する。



裁断



しるしつけ



型紙を配置



縫製



シルエットの確認・修正

(2) オリジナル作品例 (デザイン画と完成作品)

<p>「Queen」 Queenという強い女性をイメージした作品。三枚構成になっているマントが特徴。</p>	<p>「Zhuzi」 祖母の和服からリメイクした作品。布幅が決まっているため苦戦したが、試行錯誤をして完成させた。</p>	<p>「和ロリ」 成人式でも着られる作品として制作。上が和服、下が洋服で構成されている。</p>	<p>「mermaid fairy」 妖精のふわふわしたイメージと、マーメイドの鱗を表現した作品。</p>
			

(3) 効果的な発表方法の研究

効果的な演出方法を研究する。発表を通して、作品をより魅力的に見せるための効果的な演出パフォーマンスを以下の①から⑤の過程を通して研究した。また、今年度も新型コロナウイルス感染症対策も考え、安心・安全なショーの開催に取り組んだ(⑥)。

① 広報活動

発表会のテーマの設定をクラス全員で話し合い設定。テーマに沿った広報ポスターを作成し校内に掲示した。各作品のデザイン画と作品解説を載せた。パンフレットを作成し、当日受付で配布した。



パンフレット



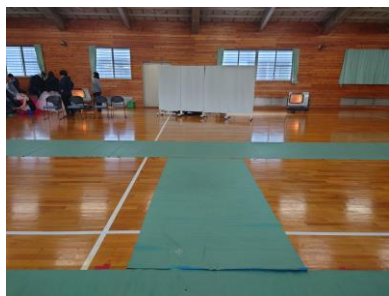
ポスター

② ショーの構成の検討

過去の発表会、専門学校のファッションショーなども参考にし、効果的な場面転換・観客を飽きさせない工夫を計画した。

③ ウォーキング

格技室にシートを敷き、舞台に見立てて12月よりウォーキング練習開始。デザインが映えるポーズや動きを考え、動きを確認しながら、事前に何度も練習した。



④ 照明、音響計画の作成

作品イメージに合う音響や照明計画を作成した。進行表を作成し、それをもとに、舞台袖より3年生照明係が合図を出し、2年生スタッフが音響・照明効果を演出する。

⑤ スピーチ (エンディング)

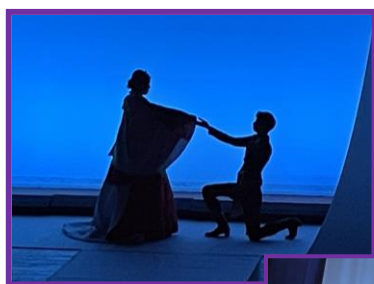
テーマ、作品説明、作者の意図やこだわりをどう表現するか考える。声の大きさ、スピード等、観客に伝わる表現の仕方を研究する。



照明係による CUE 出し



照明合わせ (場面転換のタイミング、照明の確認など)



ショー



< 1・2年生との連携 >



照明



ピンスポット



音響



舞台



受付



進行

⑥感染対策

下見をし、受付方法や使用する座席を決めた。チケットを作成し、事前に座席表と共に配布し、使用しない座席には貼り紙をした。座席の消毒、受付での検温、消毒をし、マスクの着用の徹底を行い、入場時は分散入場とした。ショー中もドアを開放し常に換気できるように配慮した。

招待者のみの限定公開としたため、会場に来られない多くの方に観ていただくため YouTubeでの配信を行った。配信については、外部業者に依頼した。



座席づくり



チケット

①作品製作について

学習成果発表会では3年間のまとめとなるような作品を各々のテーマで制作する。近年は生徒たちの憧れであるドレス系の大型の作品が多くなっている。デザインテーマも各自のこだわりのあるものが見受けられた。素材の選択にあたっては、オーガンジーやレースなどの薄物やフリルを多用したドレス、手芸的な要素を取り入れた作品も見られた。また、多数派のドレス系に対し、和服をアレンジした作品を制作した生徒もいた。

地道に努力する作業を通して、縫製技術だけでなく集中力や思考力等の様々な力を身につけることができ、学びを深める素晴らしい機会であった。

②作品展示について

服飾科での学びを紹介するための展示は厳選されたファッションショー作品の展示（ボディ一体）と、諏訪市の小中学生のものづくりへの取り組みをパネル展示で行った。

③1・2年生スタッフとの連携

発表会の裏方を支えるのは1・2年生である。本番では舞台袖からの3年生の指示出し（キュー）をし、照明・音響等の操作を行っている。受付の係員は、様々な来場者を相手にする。担当した生徒達は、終了後には大きな達成感があるようだ。発表からも下級生は先輩の姿から様々なものを学び、来年・再来年度の自分たちの発表へのモチベーションとなっていくようである。

④ステージ発表

ステージ発表はショー形式で行った。ポスター・パンフレットなどの広報活動、ショーの構成・音響・照明・ナレーションなどを効果的に用いた。全員がショーの役割を担い、それぞれの責務を果たしながら、1・2年生スタッフと連携し、自主的に活動を進めた。

広報活動では、招待者限定の公開としたため、広く告知をすることは避けた。新聞社の取材では、限定公開であることとYouTube配信の告知を行った。パンフレットは、作品のデザイン画、テーマと制作者の意図やこだわりを掲載した。

照明は専門業者が入るため、事前に照明講習会を行い、照明色による作品の見え方や、スポットの使い方による印象の違いなどの細かい説明を受けた上で、照明計画を立てた。ウォーキング計画を立て、より作品の良さを引き出すことの出来るよう練習を重ねた。5、6月に外部講師に指導してもらい、ポージングやターンの仕方、歩き方、服の見せ方などを教えてもらう機会をもったことで、ウォーキングの表現の幅が広がった。

卒業制作のまとめとして、発表作品のデザインコンセプトや制作方法を「制作レポート」として作成し、下級生の参考となるよう展示している。

服飾科生徒にとってこの行事は、社会性や様々な気配り、判断力も要求される、緊張感のある総合的な学びの場になっている。服飾科が協働して作り上げていくことは社会へ出たときにも活かすことのできる素晴らしい経験であった。